

はじめに

本報告書は2部構成になっている。第 部は、平成9年8月28日に国立国語研究所第二会議室で開催した国立国語研究所第5回国際シンポジウム・第三専門部会の全記録を取り上げた。これは、内容の上では、平成9年8月に刊行した『これからの国語教育を考える』に連続するものである。当日の出席者は、教育チームの分担者・協力者、お招きした方々を合わせて33名である。今回も非公開の形を取ったが、それは、これから国語教育・日本語教育などの日本の言語教育について、根本のところを腹藏なく話し合いたいという意図・願いによっている。幸いにも、上述の報告書とこの第 部を読み比べてみても、かなり進展した内容になり得ている。

第 部は、新プロ「日本語」研究班4・教育チームが識者をお招きして、お話をお伺いした記録で、平成8年7月に刊行した『国語教育の改善に向かって』に続くものである。理科や数学科における言語の問題が国語科に関連づけて提案されていて、これからの国語科教育を考える上で重要な問題提起になり得ている。

本報告書を刊行するにあたり、第三専門部会に御出席し、熱心に御検討くださった参加者の方々にお礼を申し上げたい。本報告書に見られるように、日本の国語教育のあり方について、幅広い見地から、たくさんの方の見方や考え方を提示していただいたのである。

実は、私どもは、文字化した録音資料を、それぞれの出席者にお送りして、推敲をお願いした。それは、それぞれの御発言が意にそまめ表現にとどまっていることを恐れたからである。幸いに、御協力を得て、読みやすい表現・言い回しになっている。

そういう願いを早々にいたしておきながら、申し訳ないことに、この報告書は、ほぼ一年近く遅れて刊行することになった。遅滞したことについて、深くお詫びを申し上げたい。

この教育チームは、後ろに掲げる組織に明らかなように、所外の研究者の協力なくして成立しない。所内の者は、そういう方々が調査研究に打ちこめるようにコーディネーター的な役割を担っている。更に、分担者・協力者だけでも十分な視野の確保が困難であって、どうしても、各方面の識者をお迎えしなければならない。そういう意味で、御協力いただいている方々に衷心より感謝の意を申し上げる次第である。

この教育チームの事務連絡及び録音の文字化作業、そして、本報告書の編集作業等については、平成9年度は大塚薫、福富七重、平成10年度は福富七重の各氏の御協力を得た。また、第三専門部会当日は、福富七重、大塚薫、篠崎佳子、藤川美穂の各氏の御協力を得た。記して感謝を申し上げる。

最後に、私どもは、本報告書が、広く読まれて日本の言語教育に何らかの貢献を果たすことを念じている。

なお、本年度は、平成10年12月12日(土)に国立国語研究所講堂で、この5年間の研究の成果を総ざらえする意味で、教育チームの公開研究会を開催する予定である。

平成10年6月

教育チーム・甲斐 睦郎
・柳澤 好昭